

# 平成20年度 日本海にぎわい・交流海道ネットワーク講演会

## — 特別講演 —

### 「ロシアと日本海沿岸の経済交流について」



株式会社道新サービスセンター 広告営業部 リーダー  
グレーブ・ジュラフスキー氏

皆さんこんにちは。ご紹介いただきました、私がグレーブ・ジュラフスキーと申します。お招きいただきまして誠にありがとうございます。心から感謝申し上げます。

私が初めて北海道に来たのは19年前のことです。ロシア国内の留学生としてふるさとのサンペクトブルグというところから参りました。実は、最近私のふるさとサンペクトロブルグという町も大変日本の自動車メーカー、トヨタ、日産、スズキを通じて、日本との交流が盛んになっていますけれども、今日の講演のテーマに余り関わっておりませんのでそこは省略させていただきます。

北海道に来てから通訳とか経済調査、マーケティング調査、ガイドブックの取材、毎年極東、主にサハリンそれから沿海州地方のウラジオストック、ハバロスク、カムチャッカに、ほぼ毎年1回か2回程参りました。私は経済学者ではありませんので、今日の講演会のお話の中に経済分析ですとか、あるいは筋をたくさん申しながら話すつもりはありません。主に、この19年間目撃した変化、それから実際に関わっていた交流、あるいは、今現在取り組んでいる仕事についてお話させていただきたいと思います。

この19年間スライド写真です。たくさんの現地視察とか、取材で行きましたときに写真もたくさん撮影しまして、その写真を今日使いながら話させていただきたいと思います。

経済交流に欠かせないのは、2つの条件があると思います。それは通信と交通ネットワークです。

今振り返ってみますと、私が初めて北海道に来たときに小さい貿易会社で通訳の仕事初めた時に、例

例えばサハリン、ロシアに電話するのにオペレーターに予約して2・3時間くらいかかりました。今はとても信じられないことなのですからけれども、その当時は、ずっと2・3時間くらい電話の前に、いつオペレーターから呼び出しがかかるか、待たなければならなかったです。その当時、ロシアにFAXという通信手段は余り普及していませんでしたので、テレックスという手段を使って先方の会社と連絡を取っていました。そういう意味でこの19年間、本当に画期的な変化が起きました、今現在、サハリンとか、ウラジオストックに電話するときに、手元の携帯から向こうの関係者の携帯に直ぐ電話は繋がりますし、さらに、例えば安い料金で幾ら話してもそんなに負担にならないくらい通信することができます。勿論、その電子メールですとか、ロシアで最近インターネットも出来ましたので、スカイという無料のソフトを使って顔を見ながら話をできるようになりました。まあ、テレビ電話という形ですね。それをパソコンとパソコン同士で繋げて通信することができます。

もう一つは交通の面で、当時札幌に行ったときに極東・サハリンとかに一度も行ったことがありませんので、サハリンに行こうとしましたら、札幌から新潟、新潟からハバロフスク、ハバロフスクからユジノサハリンスクというとてもこの地図で見ますとですね、こういうふうに遠回りしてハバロフスクですね、ユジノサハリンスクですね、こういうふうにはですね、1日以上かけていかなければならなかったです。

昔は稚内市から最短距離で40kmくらいだと思いますけれども、1日以上かけていかなければならなかったもので、最近はその意味でも大きな変化が起きました。北海道、まあどうしても私は北海道中心に仕事していますので、北海道中心に話させていただきますけれども、北海道からまずは直行便ですね、サハリン航空という新千歳空港から毎週定期便が飛んでいます。

それから、稚内から定期フェリー、丁度今年で10年になると思いますけれども、定期フェリーが開設されてからとても早く5時間半、僅か5時間半だけで向こうの港に着くことができるようになりました。毎年このフェリーを使っていろんな方をサハリンに連れて行ったり、逆にサハリンから来られているロシア人の観光客とか迎えることがあるのですけれども、今、大変満足しています。勿論、定期便だけじゃなくて、不定期便として、例えば小樽から貨物船、毎日のように出ています。このようにだいたい中古車を積んでサハリンそれからウラジオストック、いろんな街にこのような船が1艘、2艘、3艘、たくさん帰港。だいたいこの余り大きくない船で100台以上です。積んで船が出発する。毎週のように出発しています。

今日の話の中でまず隣人の状況について少し話させていただいて、最近どういふ変化が起きたかということ、その変化が経済交流にどういった影響を与えているかを中心に話させていただきたいと思います。それから最後に今現在、私取り組んでいる仕事について話させていただきたいと思います。

先ほどサハリンといえば、港が稚内から定期フェリー、コルサコフというところに着きますけれども、その港が残念ですけども余り大きな変化がありません。現地のフェリーターミナルと言えるかどうかというのは、非常に複雑なのですからけれども、小さい建物しかないもので、そこは余り変わっていません。新しい現地のユジノサハリンスクという街は、この19年間とても大きく変わりました。

まず、ビジネスホテルが十数件、19年前に比べたら数十倍増えている状況です。さらにスーパーマー

ケットの新しいビル、オフィスビルとか、いろいろな商店がたくさん出来ました。この変化をもたらしたのは間違い無く、皆さんご存知だと思いますけれどもサハリン大陸棚開発、いろいろ石油と天然ガスの開発です。

サハリン開発といいますと、南ではなくてサハリンの方ですね。この北港、オハという街を中心に行われています。オハというのは元々原住民の言葉で実はオイルという意味なんだそうです。それはつまり石油のことですね。陸の上にその水が沸いて 100 年以上前から、つまり当時樺太時代から石油開発がありまして、これはオハの中心部にそれほど遠くないところに昔の 110 年前に建てられた宿が今でもこういう形で祭られています。街のあちこちにこの古い機械が置かれていて今でも実際に陸の上で石油の採掘は行われています。当時、19 年前とか、15 年前とか、ほんとにオハまで道路が余りありませんでしたので、そこでインフェイストから約 850km 距離なのですけれども、道路がひかれたという形で、それから大陸棚、海の方ですね、石油と天然ガスの採掘が行われています。

これはチャイドの陸から見たチャイドという港が湾なのですけれども、チャイドの奥の方にこのような改修フラットが置かれていまして、これはモリツパクというサハリンⅡというプロジェクトのプラットホームなのですけれども、そこから天然ガスと石油、そこで設置されています。

サハリンプロジェクトといいますと、サハリンⅠとサハリンⅡという2つのプロジェクトがありますけれども、サハリンⅠの方が臨時で北の方で採掘された石油を、大陸の方ですね、ここが一番狭いところで、大陸の方パイプラインを引いてエクソンというアメリカの会社が下に載っていますけれども、そこで大陸の方に持って行きます。それは天然ガスのまま大陸の方に持って行き、中国に輸出する話もあるし、それからロシア国内でハバロフスクとか、ウラジオストックで石油を使う予定です。

サハリンⅡの方なのですけれども、北の方から約 850km、パイプ2本天然ガス用と石油パイプを引いてユジノサハリンスクではなくて、コルサコフ港の近くまでそのパイプを持って来て、そこで天然ガスを液化ガス、エンジンに加工して石油をそのまま輸出する。タンカーで輸出が全てです。こういう形でパイプラインがみんな建設されて、この建設自体もほぼ終わったのですけれども、ここは数日前の写真なのですが、さらにクリードラというコルサコフの近くのところまで持って行きます。

これはちょっと私の自慢で貴重な写真なのですけれども、6年前にこのクリードラという、この場所なのですけれども、高台がありましてそこから撮影した写真です。まともに道路も無いし、このとおり電気も何も通っておりません。この港ですね、1年だけでこのように変わりました。これは2004年の夏のときに建設が始まっています。それから2004年に港の工事が始まって2005年に工事が進んでいるのですけれども、毎年この高台に登る機会がありまして、毎年同じ場所からこの形で写真を撮影することができました。2005年にこのように液化ガスのタンクがもう形が出来ていますし、さらに工事の近くに約7,000人が住む、リカブという住宅が出来てそこも建設が行われています。これは2006年に撮影された写真なのですけれども、L字タンクが出来上がりまして、この形になっています。ほぼL字らしい形になりまして、これは昨年、2007年の写真なのですけれども、このとおり棧橋の船着場とか施設がほぼ出来上がっていますし、非常に大きな工場になっています。年間960万トンくらいの規模で世界でも最大級といわれています。

そこから液化ガスと石油を主に日本、それからタンクは韓国向け、石油に関しては世界各国輸出する

予定です。これは今年の6月ですね。もう一応点検が行われてこのような形でガスを採っています。そのために、日本から液化ガスを持ち出す船が停泊して、そこで点検用のガスを持っていきたいという船が丁度6月に入っていました。上空から見ると先ほどの何も無い、いわゆる6年前に更地だったところでこのような一つの街になっています。ここは住宅地で、先ほどのL字タンクこの2つあります。さらにもう1基を作る計画がありますけれども、今のところは2基となります。この辺は石油積出しターミナルと岸壁が出来ています。こっちの方は石油積み出しターミナルになるということで将来的にこの住宅街は必要なくなります。これは臨時で作られたもので、建設が終わってから撤去される予定です。一応2008年つまり今年の12月に出荷される予定ですが、現地ではそんなに早くはならないのではないかなといわれています。だから来年の春、ちょっと延びるかもしれませんが、いずれにしても近いうちに大規模なプロジェクトが完成する予定です。

僅か稚内から5時間半のところに、この工事が実際に出来上がっております。現地にこういった大規模な工事、サハリンプロジェクトがどういった変化をもたらしたかということやはり大規模な投資が行われることによって現地の経済が大変活気に満ちています。新しいショッピングモールとか、それからオフィスビル、ホテル、これは去年中国の会社が建てたホテルとオフィスビルなのですが、これも完成しています。それから高級ホテル、これもホテルなのですが、オフィスビルですね。数十件、ユジノサハリンスクという街はあまり大きくない街なのですが、人口僅か18万人なのですが、ここで一気に2・3年の内にこれはエクソンという会社、これはアメリカが本社なのですが、一気にたくさんオフィスビル、ホテル、ショッピングセンターが出来上がりました。非常に現地の風景が変わってこれまで日本とか、あるいはこういうきれいな看板は全くなかった地域の中でそういった新しい近代的なビルとか、オフィスが出来ました。勿論、ショッピングセンターの中味も大きく変わってこのとおり日本と殆んど変わらないきれいな店がたくさんできています。現地の地元の人の生活はこういった店の物価、価格は日本とそれほど変わらないですが、つまりそれだけの収入を得ている地元の人が増えたということで大変大きく変わっています。

もう一つは結婚ブームで、サハリンでベビーブームといわれるほど子どもの出生率が上がっています。幼稚園が足りないほど子どもがたくさん増えています。同じような状況は実は先ほどサハリンの話だったので、ウラジオストックもう一つは沿海地方の極東の港に起きています。これは上空から見たウラジオストックがゾロトイ・ログ湾（金角湾）というところですね。ここが隠岐の島といっています。さらにその直ぐ近くにナホトカという港がありましてこの辺全部交易、新潟とか、いろんなところと貿易が盛んに行われています。

元々ウラジオストックというのは、軍港で五艦隊の港の拠点だったので、実は91年までロシア人も特別な許可を受けずにウラジオストックに入れることはできませんでした。勿論、外国人の方も現地を報道したり、こういった写真を撮影することは、実際考えられないことだったので、ここ数年外国の観光客ですとか、それからいろんなショッピングセンター、サハリンと同じようにたくさん出来ています。ウラジオストック、これは会場カジノとか、それからいろんなきれいな看板たくさん出来ています。こういったウラジオストックの発展をこれまでに支えてきたのが貿易で、主に中古車の販売ですね。やはり日本から中古車をこのように大量に、これ全部日本から入って来た中古車なので

すけれども、これを輸入して現地で販売したり、それから他の港に移し、ロシアの地域、内陸シベリアとかに販売するという非常に大きな儲けが行われていました。

現地で最近行われた統計調査によると、ウラジオストックの車の9割が日本車です。全体を100%でいうと48%はトヨタ、15%が日産の車、7%は三菱で100%のうち1割、たった1割だけがロシア国産車で前年比合わせて1割しか達してないと、このとおりウラジオストックのメインストリートなのですが、大変渋滞しております。これよく見ると国産車が殆んど見当たらないわけですね、いろんな日本だけじゃなくて、他の外国の車も走っているのですけれども、殆んど9割以上は日本車です。

貿易は今でも盛んに行われているのですけれども、ウラジオストックのこれからの経済の発展の鍵は2つあると言われてます。

これはまず、石油開発サハリンと同じように、石油開発自体はウラジオストックで行われるわけではないのですけれども、シベリアのバイカル湖の近くにこの地域は実はたくさん石油が取れるところですが、そこからウラジオストックの近くまでパイプラインでこの石油を持って来てウラジオストックからそれを出荷するという計画です。実際にまだ太平洋パイプラインと言われているパイプライン建設は、既に行われていますけれども、これは私が撮影した写真じゃなくてちょっとインターネットから借りてきましたけれども、工事はかなり進んでいるということで、太平洋と書いてあるのですけれども、太平洋パイプラインの建設現場です。一応2009年にこの建設が完成され、ウラジオストックの近くにユジノという港があるので、そこで石油ターミナル、これも同時に建設が行われていて、同じ時期にターミナルも完成する予定です。

石油の流通は天然ガスと違ってスポットで輸出が行われているのですけれども、勿論日本もその対象になっていますし、中国ですとか、韓国、アメリカまで輸出されることも予定されています。

それからもう一つは、ウラジオストックで行われている大きな計画、2012年にアジア太平洋経済協力会議というエイペックという会議が予定されているのですけれども、そのための会場工事ですね。こういった工事は北海道で今年サミットが行われているのですけれども、そのために建設されたのは唯一の施設であるマツドサミットの為に建設されたのはこれだけだと思いますけれども、ウラジオストックの場合はホテルから会議場、空港、その空港から街までの高速道路それから一番この目玉になっているのがウラジオストック市からエイペック会場として予定されているロスキーコという街の近くにある島なので、既に建設が始まっていて、実は先ほどの展望台から撮影した写真があったのですけれども、その展望台の直ぐ近くにこういった建設が既に始まっています。

これを一応会議に2011年までに急ピッチで工事が進められているのですけれども、完成される予定でさらに会議場、ホテル5軒くらいと言われてますけれども、全部新規で建設され、勿論そのロシアの連邦予算から大規模な投資が見込まれていて、全国の企業もプロジェクトに参加する予定です。

つまりその関連で建設資材とか、重機、その際の建設機械の輸出も盛んになるといわれています。まあ、中古車と建設機械ですとか、これまでも輸出が行われていて、私今日の講演の中に全然違う分野、経済交流について話させていただきたいと思っておりますけれども、これは新たな分野でこれまでにどちらかというと殆んど無かった分野なので、これは分けると4つですね。私自身もこの分野の交流

にいろんな形で携わってきましたので具体的にお話したいと思います。

一つは食品ですね。ロシア人は以前刺身とか、鮭、15年前には全く食べる習慣がなくて和食でしたらウラジオストックだとか、サハリンもそうですけれども、本当に数件しかなかったですね。地元のスーパーに行きますと和食を例えばカップラーメンですとか、醤油とか日本食を手に入れるということは非常に困難で現地の方からお土産に持って来て欲しいと結構頼まれてその年に持って行きました。

実は、最近サハリンのスーパーに行きますと、このように味噌からいろんなタレ類、カレーライス、わさび、醤油と様々な和食が販売されております。インスタントまでであるというのは、ちょっとびっくりしましたけれども、だいたい日本全国の物が店で販売されています。一つは注目していきたいのはまず値段ですね。この下にルーブル価格が書いてあるのですけれども、これよくこの写真見てみるとこれ日本円ですかと聞かれますが、これは日本円ではありません。ルーブルなので今のレートでいうと実は1ルーブルは約5円というレートで計算しますと約5倍くらいなのですね。

つまり、このタレとかが1,000円以上、場合によっては1,500円とかいろいろなものがある。つまり日本の価格よりもとても考えられない値段で販売されています。それでも物が足りないということでよく地元の人からもっと輸入できないかなと。メーカーさんとか紹介して欲しいという話があります。それだけ和食が人気ありまして実はこういったコーナーで特別許可を取って普通は、撮影は禁止されていますけれども、このスーパー1箇所ではなくて何箇所かありますので和食だけの特設コーナーというか、特別コーナーができていまして、和食しか無いというコーナーもできております。このとおり飲み物、味噌類ですね。わさびと醤油は大変人気があるのですけれども、それは鮭と刺身が地元のロシア人が食べるようになって例えば家庭でも釣りで釣った魚をさばいてそれを刺身にしたりとか、鮭にしたりする方もおります。決して珍しいことではなくなりました。

それからこれは実際にメーカーさんの方から全部ラベル日本語ですから使い方とかそのレシピが分からないと丁寧にロシア語と英語のレシピ、説明書を作って物を一緒に付けています。地元で試食会をこれは日本のスーパーとか、本当に形としては変わらないのですけれども、醤油ですとか、タレ類の試食が行われていてこれもメーカーさんのサポートでこういったチョコも作られていますので試食も行われています。サハリンのスーパーで実際に行われたとおりになるでしょうか。

それからもう一つは和食レストラン、先ほど数軒しかなかったというのは、今サハリンだけで10軒以上、こういうふうに「ふるさと」という、これ一番ユジノサハリンスクを中心にある店なのですけれども、店長さん日本人の方で、最近ユジノサハリンスクの名誉市民という資格を受け地元で有名な宮西さんという方ですけれども、後は、和食日本みたいという回転寿司さんですね。これはもう建物自体が新築、新しく建てられて中に本当に日本とそれほど変わらないような雰囲気再現されています。竹をこんなふうに使って1階と2階、こういう形でちゃんと回転寿司の機械も作られて、ネタもだいたい日本から入っていると。一部は地元で調達されているということなのですけれども、「あなご」とか、「とびっこ」とかといういろんなネタがないので、それは日本から輸入されています。

さらにはこんな形で地元の方というホタテもあるのですけれども、日本の「わさび」ここも夜になると予約無しで殆んど入れません。客は勿論日本から来られた観光客もおりますけれども、だいたいロシア人ですね。地元の方に非常に人気ありまして、調理長は日本人の方なのですけれども、こういった

店で本当に居酒屋と同じという雰囲気を作っております。こういった店に人気ができたのもやはり経済成長の影響で感覚的に日本の居酒屋よりざっと2倍か3倍くらいの値段するのですけれども、それでもほぼ満席になっております。

これも「わさび」という中なのですけれども、もう一つの分野はレジャーですね、これまでロシア人、地元の人にはなかなか日本製のレジャー用品、釣具ですとか、テントとかですね買う余裕がなかったのですけれども、ここ数年非常にその需要が増えていまして、ここ2・3年くらいですね、例えばサハリンからこられた方が良く日本のお店で必ずこういった物を買ったりするのがあるのですけれども、さらに現地のこれもサハリンですけれども、現地のレベルも非常に釣り場として非常に良い場所がたくさんあって、珍しい北海道とか、日本で珍しくなったイトウという魚が釣れますし、5kgくらいのですけれども、後カレイですとか、こういった形で釣具店ですね、日本と余り変わらない感じで地元の釣りを楽しんでいます。

さらに釣りはサハリンの場合は1年中、冬もキュウリとか、わかさぎ、チカなど釣りは大変人気なので、このとおり11月・12月頃になりますと、もう大勢の数百人、数千人くらい上手な方が近くの湖、あるいは港、海まで行って氷の上にこのようにして、チカ、わかさぎなどを釣ってたりします。

北海道の釣具販売店「フィッシュランド」は約2年前から現地の企業と提携し、ユジノサハリンスクで釣具店とアウトドア用品の店舗を開設し、釣具とアウトドア用品の輸出と販売を行っています。これはその店舗の様子です。地元の釣り好きな人が絶えず、新しい商品を求めて、店を訪ねています。特に人気が高いのは、日本製の商品で、値段が多少高くてもよく売れています。

もう一つの分野は観光です。ここ数年では、サハリンなどで住んでいるロシア人に北海道のツアーが大変人気が高く、大勢の方が北海道の観光地を訪れています。ロシア人によるツアーと言えば、かつて安い中古車とショッピングだけが狙いだったが、ここ数年では温泉旅行やグルメツアー、高級なデパートでのショッピングは大人気で、こういった観光客は毎年増えています。

これは2006年の秋に行われたロシア人による北海道の一つのツアーの様子です。「デジカメツアー」と名付けられました。参加者は北海道に来て、このように最新のデジタルカメラについての講義を受け、買いたい方はカメラを買って、このカメラの使い方を習いながら北海道の名所を巡って、写真を撮影していました。

これは有珠山やすすきのの寿司屋、伊達時代村、余市の果樹園、ニッカウイスキー工場等の見学の様子です。参加者はこの通り、北海道の観光を大変楽しんでいました。一週間のツアーの代金はおよそ1500ドル、約15万円で、サハリンの金持ちだけでなく、一般の人にとっても手が届く価格です。

このツアーの参加者も定期フェリーを使って、稚内経由で北海道に入り、バスで移動しました。買い物もたくさんして帰国しました。定期フェリーを使って、北海道に来るロシア人観光客が毎年増えています。

また、冬の間は定期フェリーがないが、飛行機により来道する人は少なくありません。ロシアではここ数年、ゲレンデスキーを楽しむ人が増えているので、北海道のスキーツアーも大人気です。ルスツやキロロ、ニセコなどのスキー場はロシア人観光客に人気が高く、長期滞在する人も少なくありません。

最後の分野は、ロシア人による日本語留学です。これは経済交流と言えるかどうか分かりませんが、北海道の大学や日本語学校ではロシア人私費留学生が増えています。サハリンやウラジオストクでは、日本語を学ぶ学生が多く、その中に日本で留学を望む学生も少なくありません。北海道文教大学のようにロシア人留学生のために専用のコースを組んでいる大学もあり、好評を得ています。

こういった状況の中では、日本の食品や商品、観光地、大学などについての情報が求められています。弊社は3年前からサハリンやウラジオストクの新聞と提携し、広告の掲載と情報提供を行っています。これはサハリンの「自由サハリン」という週刊紙に掲載された日本の味噌や醤油についての記事と広告です。この新聞にはこの通り、北海道デジカメツアーやスキーリゾート、釣具店等についての記事と広告が掲載されたことがあります。また、最近では、稚内・コルサコフ定期フェリーについての広告が掲載され、その中に日程表や料金なども入っています。

皆さんの中には、サハリンなどの極東地域を視察したことがある方は、多いと思いますが、もし行ったことがない方がいらっしゃれば、ぜひ一度でも現地に出向いて、ご自分の目で現地の状況をぜひ見ていただきたいです。日本語のことわざによると、百聞は一見にしかず…ロシア語にも同じようなことわざがあります。その結果、また新しいアイデアや新しい経済交流の分野が生まれると期待しています。

ご清聴ありがとうございました！